

生活の伝承 35

発行者 民家園のつどい
会長 近野厚子

発行所
福島市五老内町3番1号
福島市文化振興課内
「民家園のつどい」事務局
☎ 024-535-1111(内線 5373)

昔の雪国の子供の遊び (奥会津地方)

民家園のつどい

幹事 芳賀 忠光

自分の生まれは、南会津郡の旧伊南村(現南会津町伊南地区)で積雪量の多いところです。この文章を読んでいる方の多くは、積雪の多い場所に住んだ経験が少ないと思いますので、奥会津地方の子供の遊びと暮らしを知る参考になると思います。

私は昭和三十年代に小学生時代を過ごしましたので、その頃の遊びを紹介したいと思います。背の丈よりも高く積もった雪が、少しずつ溶けて土が見えてくる春は、子供も大人もとても嬉しい季節です。重くて歩きづらい長靴からゴム草履や下駄に履き替えて柔らかい土の上を歩く気持ち、雪国に生活した人が感じる嬉しさだと思います。自分は、近所の子供達五、六人と道路(ほとんど未舗装で車も少ない時代)や家の庭で遊んでおり、パッタ(メンコ、パッチ等とも呼ぶ)、釘刺し(五寸釘で相手の釘に打ち付けて倒したり、釘で引いた線で相手の釘を囲むと相手の釘がもらえる。帖とじとも言った)、ビー玉、いろんな鬼ご

っこ、棒隠し(地面に円を描き線の中に隠した小さな棒を探す)、陣取り、馬跳び、相撲等の男子向きの遊びと共に、妹がいたので、女子向きの遊びとして、まます、綾跳び、綾とり、お手玉、長縄跳び等もしておりました。春といえれば農家が忙しくなり、自分の家でも田植えに向けた作業が始まり、どこの子供も手伝いをしました。馬(昭和三十年代は馬を飼っている農家が多かった)や、耕運機で田起こしをし、子供は田植えの手伝いで苗を運んだり、少し大きくなると田植えもしました。山菜も出てきますので、腰籠や背負い籠に鉈(なた)等を持って両親と近くの山に入りました。蕨(わらび)やゼンマイが主な山菜で、フキも少しは採りました。今ではできませんが、水筒を持参せず、喉が渇くとフキの葉で沢水をすくって飲みました。両親が炭焼きをしていた頃の窯跡を通る時は苦労したのだなと思ったりしました。

川の水が温まってくると泳ぐことが出来る夏です。郡内はもちろん学校にもプールなどはありませんでしたので、伊南川に行き、川の底まで潜ったり、滝に飛び込んだり、箱眼鏡や水中眼鏡を使って、ヤスでハヤやカジカを突いたりしました。捕ったカジカ等は河原の柳の枝に通して持ち

帰り夕食のおかずになりました（カジカは身が少ないので特に喜ばれた記憶はありません）。私は、川でしか泳いだ経験がなかったので、初めてプールで泳いだ時は流れがなくて進まなかったこと、海では身体が浮いて泳ぎやすかったことを覚えていています。

伊南川左岸（西側）の山には熊がいると親が言ったことから、山で遊ぶ時はもっぱら裏山でした。ターザンごっこ、木登り、葉っぱの面作り、神社でのかくれんぼ、アリジゴク捕り、蛇捕り（毒のない青大将等をとるが、直ぐに放しました）、トンボや蝶、蝉もよく捕ったものです。父などはママシを捕ってきては一升瓶に入れ、ママシ焼酎を作って希望者に分けていました。ちなみにママシは蛇の形で生まれますが、卵はよく弾むため地面に落として今のスーパーボールのようにして遊んだこともありました。夏の時期で家の手伝いといえば、田んぼの水管理です。多いか少ないかを見て、用水路からの水量を加減したり、大きくなると草取りをしました。自転車に手押し草取り機を載せて運んで草取りをします。山羊を飼っていたときは、餌の草取りに背負い籠を背負って行きました。ちなみに山羊の乳は牛乳と違って下痢にならなくて良かったです。鶏の餌やりや、卵を売るのも子供の仕事でした（我が家では十羽位の鶏を飼っていて、一個十五円で売っていました。牛乳と並んで物価の優等生です）。八月のお盆や九月のお祭りは親から小遣いをもらえたので、駄菓子屋で駄菓子やパツタ、ビー

玉等を買って、飛行機や凧は紙やアルミの部品が入っていたので、作るのが楽しみでした。夜店で売る幻灯機や地球ゴマ等は時々買ってもらいました。祭りには着物を着て太鼓を引いたり、旗等を持ちました。素足に草鞋（わらじ）履きなので雨の日は泥だらけになります。普段もゴム草履か下駄履きなので、特に気にしませんでした。

日が短くなると周りの山々は全山紅葉となる秋です。子供は紅葉狩り、隠れ家作り、木登り（葉が落ちて眺めが良い）等をして遊びました。普段は仕事で忙しい親と一緒にきのこ採りに行くのは、春の山菜採りと同じく、とても楽しい時間でした。きのこは知っているもの（舞茸、なめこ、きくらげ等）以外は決して採りませんでした。また、自宅の裏山が中心で、ほかの場所（村外や他の集落分）では山のもの採らないようにしていました。ナメコの軸取りのアルバイトも小学生が多く、近所の子供と握り鉢を持って夕食後に工場に行っていました。貴重な小遣いになって嬉しかった思い出があります。

きのこといえば、最近では県外から山菜やきのこを採りにきて根元まで採るため、翌年から採れなくなり困っているようです。また、迷って遭難騒ぎになり、地元の消防団員が搜索する騒ぎになるようになっています。秋の子供の手伝いは稲の収穫手伝いが中心です。稲刈り機械がなかった時代ですので、親戚や家族みんなで刈ってありました。母の実家から借りた手動の稲刈り機を使った時は腰が楽良かったです。

す。作業の合間の小屋では笹巻や牡丹餅が美味しかったです。稲を刈ったあとにハダ架けをして乾燥させますが、八段くらい上にいる親に稲を投げ上げるのは得意でした。また、父親が畳業をしていたので、縄編(な)い、庖丁研ぎ、薦(こも)編み等の手伝いは兄弟でしておりました。

秋と言えば、父と子ウサギを追いかけて捕まえたこともありましたが猫が食べたがったため、箆(ざる)に入れていたら、翌朝冷たくなっていました。かわいそうなことをしたと思いました。

小学校は自宅と同じく薪ストーブでしたので、焚付け用の杉の葉を各自一束、学校に持っていく決まりになっておりました。山に入った経験のない近所の女子のために自分が二人分運んだりもしていました。小学校では六年生の男子が薪置場でヨキを使って割っていました。ほとんどの家では男子が焚き付けと薪割りをしておりましたので、綺麗に割れると自慢できたものです。

小学校の庭には約八百年前に植えられたという大きなイチヨウの木があり、乳のような表皮を触ると乳の出が良くなると言われ、昔は新潟からも人が来ていたということでした。黄色の落ち葉が絨毯のようで、キツネの面を作ったりして遊びました。

十一月も下旬になると初雪が降り冬の到来を感じます。辺りが白くなってくると子供の遊びも変わってきます。なんとといっても、地面に

転がっても服が汚れないので、思い切って走り回ることができるのです。箱櫃(そり)に妹や弟を載せて雪の上を滑ったり、斜面で滑ったりしていました。箱の中には藁が敷いてあり温かでした。なお、山形県で昔使っていた乗合の櫃を見た時は自分も乗ってみたかっと思いましたが。スキーは裏山の斜面を滑るのですが、あまり上手ではありませんでした。転ぶと笑われるので恥ずかしかったです。大人になってリフトを使うと、とても楽で何度も滑ることができたので、蔵王や猫魔等色んなスキー場で楽しく滑れるようになりました。

クリスマスには年に一度のケーキが食べられます。近所に洋菓子店はありませんでしたが、クリスマスだけは雑貨店や農協などがケーキを販売するのです。正月は餅を食べたり、炬燵(こたつ)で蜜柑を食べながら親兄弟とトランプをしたりして、とても楽しい時間でした。自分の地域では、数えの六歳になると「火の用心」の書初めをして近所や親戚に配り小遣いをもらいました。民家園の旧馬場家にも貼られていたと思います。母の実家に泊まりに行くと、祖父と寝ながら昔話を聞いたりするのも楽しみでした。軒につるした干し柿や干し餅も甘くて食べるのが楽しみでした。小正月では団子刺しをし、節分は商家等では豆と一緒にお菓子を撒くので、子供は袋をもって商家を回ってお菓子拾いするのがとても楽しみでした。

日が少し長くなると、日中溶けた雪が夜に凍って堅雪になり、雪の

上をどこまでも歩くことが出来るようになります。橇乗りや凧揚げに最適なので、子供は吹雪以外の日は外遊びしたものです。父は畳業をしておりましたが、畳の注文（表替え、裏返し、新床）は予告なしにありました。今と違って結婚や葬式等は自宅でするのが一般的でしたので、雪が積もった家で不幸があると雪を踏みながら畳を運び出し、表替え等をするのです。子供でも、物差しや、帳面等の道具運びはしますが、吹雪の時や雪踏みされてない道を歩くのはとても辛かった記憶があります。それでも父の手伝いができたことは今では誇りに思っています。

最後になりますが、令和4年6月から民家園のつどいに加入させていただき、縄綱いや田植え、稲刈り等の懐かしい作業や盆だな作り、どんど焼き等の初めての作業に参加させていただき感謝申し上げます。子供達が初めての農作業等に喜んだり、年配の方が懐かしく感じられる時は、自分もとても楽しく感じています。

この文章を作成しながら思ったのは、昔は貧しくとも豊かな時間を送っていたと感じられたことです。効率や金儲け等の目先のことが優先され、思いやりのある豊かな社会・生活がなおざりにされていると感じるのは自分だけでしょうか。これからも民家園の行事を通じて豊かな時間を過ごしていきたいと思えます。また、暮らしの伝承という観点から、民具等の名称、使用方法、農作業等の方法、民家等の構造・

歴史など勉強する事が沢山ありますが、会員の皆様と一緒に学んできたと思います。また、少ない会員ではできないことも多いことから、仲間を増やすことも無理せず励みたいと思います。



わら細工の伝承と、藁に伴うあれこれ

民家園のつどい

会員 渡辺 安治

民家園のわら細工は、年中行事の飾り物や生活上の民具になくはならぬものとして、代々伝承されてきました。民家園のつどい 加藤重芳さんのわら細工語録には「人間の文化は紀元前1万年縄文時代から始まる。人間の外に縄を縋う動物はいない。稲作が始まって田の神（山の神）の信仰が起り多様な文化に発展した。な・わとは汝と我 男と女 夫婦の睦あうかたちである。夫婦円満・家門繁栄・天下泰平 などなど」とあります。

民家園のつどい設立当時、わら細工をされていた方々は、藁が生活の一部に溶け込んでいたと思われます。また、二十周年目を迎えた頃の会員は、わら細工を目にする機会が多少あった世代かと考えられ、正月や小正月飾りは、加藤重芳さんを筆頭に会員数名、そして時には職員（平成十六年まで）が製作しておりました。したがって、「手仕事は観（見）て真似して覚えるもの」「真似ることは学ぶことの第一歩」なのです。このやり方も長い目で見れば伝承の手法だったかなと思えます。それ以降、民家園のつどいが三十周年・四十周年を迎えた頃の世代は、農作業の近代化でコンバインが出現し、稲刈り脱穀と同時に

田んぼで稲わらが刻まれ、藁自体を目にすることが少なくなりました。そして、わら細工は特定の機会でしかお目にかかれなくなり、「真似して覚える！」は通じなくなりました。

そこで令和二年に「わら細工ワーキンググループ」が発足するも、なぜか講師とリーダーの二人で二年間が経過しました。これはいかげなものかと思ひ、令和四年にグループ員の募集をお願いしたところ、それまでお手伝いいただいていた会員の皆さんから賛同を得まして、十五名ほどの組織体になりました。なんとその内女性が五名（全体の三分の一）となり、先々に期待が膨らみます。ただし、全体的な在籍ベースはともかく、実働が尊ばれますね。

令和五年度より、わら細工ワーキンググループはリーダーの小室文江様、副リーダーの芳賀忠光様のもと、活動しております。

一 正月迎えと小正月飾り

グループ発足二年目を迎えた令和五年度の両飾りのわら細工は山申すを含め、ほぼ仕上がりました。この分野は伝承の目安がついたことを講師の加藤重芳さんにご報告いたします。安堵して喜ばれることと思ひます。ここで再確認ですが、正月飾りのわら細工は左繕（よ）りではなく左縋いです（繕りと縋いの違いを認識ください）。名だたる辞書二種に「左縋」は左繕りの縋と記されておりますが、これは間違いです。正しくは右繕りの左縋の縋なのです。このことは両編集部に訂正申し入れを行い、十年後位に改訂されることを期待しております。

福島市民家園から日本全国へ発信したいものです。なお、左緋の縄は正月の注連縄以外に地鎮祭・神社の入り口・神棚・つるべ井戸のつるべ縄・馬鍬の引き縄・荷縄・相撲の横綱などがあります。

また、思いがけない朗報ですが、三年前より「もりりんリサーチ」なるところから、輪じめ製作指導の依頼があり、今年度は笹木野萱場の阿部邸に出前講座として、芳賀忠光さんと出向いてきました。和服を召したご婦人方八名に公開予定でしたが、内三名が指導願いと乱入し、大いに盛り上がりました。

二 ベこそうり（べこは東北地方の方言）

体験行事でお客様に対する指導として、講師の宍戸徳雄さんや、会員の加藤重芳さん・菅野富家さんが長らく対応しておりましたが、会員への伝承はなおざりにされていたと思われまます。したがって現在のつどい会員で我ここにありという方はいないと推測され、近くの農家より藁をいただき、自宅で時折手習いしており、今後なんとか物にしたいと考えております。問題は鼻緒の結び方で、べこの頭に似せ縄の緋をほぐし結ぶ箇所が難儀しております。会員で動画撮影のプロ級の方から、春には「べこそうり作り」の実撮をしたいと背中を押されており、何とかぞうり作りの実力を身に付けDVD撮影に臨みたいと思えます。

三 藁に伴う番外編あれこれ

(一) 箆（むしろ）編み

過去には毎年八月の土曜、日曜の八日間ほど講師を依頼し、二人組で高橋武雄さん・宍戸徳雄さん・広瀬郡治さん等に製作いただき、教

育委員会文化課経費で講師料を支払い、年間三〜四枚の新しい箆がお目見えしてました。現在は講師の方々に連絡もつかず、また予算化も難しく製作は途絶えました。残念ながら将来はブルーシートでの稲作収穫作業となることでしょう。

(二) わらみょうずみ

旧奈良輪家の前庭に加藤重芳さんの作で豊穰神（ほうじょうしん）の如く鎮座してました。重芳さんの田んぼの藁をお知り合いの梅津さん（温湯街道沿い）が毎年軽トラで園内に搬入していただきました。補修のてこは民家園の方も含め、何回か繰り返しましたが、材料の藁の調達に困難となり、次第に姿が小さくなり、平成二十九年頃には残念ながら姿を消しました。あの姿は農家の古民家を醸し出す風情がありますね。昨年近野会長より復活の要請があり、藁の調達先を民家園の皆さん共々模索するも、大量の藁の確保は叶わず、現在断念中です。

(三) たればかま（旧渡辺家）

重芳さんの作。年数の経過で朽ち果てた姿となり、令和二年に改修を思い立ち、取り掛かりましたが、左右のネットで縄緋が100×21200m必要でした。それを暇に任せ、民家園と自宅で緋上げ、その縄を「かます」編み具で編み出し、土台の馬を作り直し、取付などで総日数二十日間ほど費やしました。一人完成祝いの後、重芳さんから「ご苦労さん。ありがとう」と言われて苦労が報われた思いがしました。

(四) 土座（旧阿部家）

なかのまとなんなどが板床を張らない土座が特徴。平成十六年に箆の

下の藁を取り替えましたが、以来二十余年、藁がよれよれとなり、ガイド時に土座の説明をするのが若干躊躇されますので、今年近在の農家より藁を譲り受け、民家園と相談の上、囲炉裏の周りだけでも敷き替えたいと思います。

【五】 藁布団 (旧奈良輪家)

ななどに藁布団が敷いてありますが、平成十六年に藁の入れ替えを実施しました。日常使用するものではなく、このままで良いのかと思われます。存在を知っていただければ幸いです。

【六】 たんがら その他

各古民家にあるも、補修などには如何せん手が回らないのが現状です。



「民家園のつどい」 会員随時募集中

「民家園のつどい」は、福島市民家園で年中行事を再現している団体です。一緒に年中行事の再現に参加しませんか。興味のある方、会の活動内容をお聞きになりたい方、入会希望の方など、お気軽に事務局までご連絡ください。

【令和五年度の主な活動内容】

- 5月
 - ・年中行事「端午の節句・田おこし」「田植え」「むけの朔日」
- 6月
 - ・年中行事「子どもの遊び」
 - ・「養蚕」実技研修(糸取り)
 - ・「旧所在地の視察(旧佐久間家板倉跡地ほか)」
 - ・年中行事「たなばた」、体験行事「昔のくらし」
- 7月
 - ・年中行事「盆の行事」
- 8月
 - ・研修「べこぞうりの作り方を学ぶ」
- 9月
 - ・年中行事「おつきみ」、体験行事「わら細工」
 - ・視察研修「市外類似施設の視察(暮らしの伝承郷ほか)」
 - (福島県いわき市)
- 10月
 - ・年中行事「稲刈り、脱穀」「収穫祭」「子ども秋まつり」
- 11月
 - ・体験行事「わら細工」
- 12月
 - ・年中行事「正月迎え」
- 1月
 - ・研修「わら細工(正月迎え用注連縄)」
 - ・年中行事「小正月」「節分」
- 2月
 - ・研修「わら細工(小正月用注連縄)」
 - ・年中行事「桃の節句」

【事務局】 福島市 文化振興課 文化財保護活用係

☎(024)5255-3785(直通)

生活の伝承